

岡田宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第 9 号

平成元年11月吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番地
郵便番号806

電話621-1898

岡田神社二千六百五十年祭

ご奉賛のお願い



五十年に一度のご改築を行ないますので
何卒ご奉賛をお願い申し上げます。

一口 一万円

銅板一枚2,500円

※口数に制限はありません。

※御芳名は記念碑に刻み永久保存いたします。

※口数に制限はありません。

※銅板の裏に、住所・氏名・願事を記入いた
しまして、御社殿のお屋根に葺きます。

岡田宮と厄除やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、「人生の折り返し」だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるときれています。厄年の方は、障りある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄ばらい」です。

厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましょう。

北九州の古社である岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。皆様方おそいで御参拝下さいます様御案内申し上げます。

平成二年の厄年

厄年(男)

二十四才	前厄	昭和四十二年生
二十五才	大厄	四十一年生
二十六才	後厄	四十一年生

四十一才	前厄	二十五年生
四十二才	大厄	二十四年生
四十三才	後厄	二十三年生

六十才	前厄	六年生
六十一才	大厄	五年生
六十二才	後厄	四年生

厄年(女)

十八才	前厄	昭和四十八年生
十九才	大厄	四十七年生
二十才	後厄	四十六年生

三十二才	前厄	三十四年生
三十三才	大厄	三十三年生
三十四才	後厄	三十二年生

三十六才	前厄	三十一年生
三十七才	大厄	二十九年生
三十八才	後厄	二十八年生

※年齢はかぞえ年です。

● 厄除大祭 二月節分日

神社と氏子うじこ

本来氏子というのは、上代氏族社会において、氏族が血のつながった祖先をまつて氏族共同の守り神とし、これを氏神と称したのに対して、自らを氏子といったのですが、のちに、そこに住居する人々も、その土地の守り神として氏神まつりに参加するようになったのです。新たにその土地に住みついた人々にとっては、本来の氏族の子孫を問うまえに、その土地の守り神、すなわち産土神として崇敬したのです。

氏神が氏族の祖先神で、産土神がその土地の守護神という区別がなされるとしても、その土地に住む人々からは、ともにその地域を守護される神さまとして崇敬されるもので、そこに産土子という言葉も生まれて来たのです。

明治に入って、氏子制度が法制化され、戸籍区毎に区内の住人を氏子として、神社に帰属することを定め、氏子札を発行、氏子籍が定められました。間もなくこれは廃止になりました。その後、それまでの慣例による氏子区域により、その土地に生まれた者を、その神社の氏子とするようになったのです。

戦後は、神社は宗教学人となったため、以前のような氏子制度はなくなり、そして氏子区域も公的には認められませんが、以前の慣例を残しているようです。

現在では、神社の信者、または神社を維持し、まつりに関与する人々を、氏子または崇敬者と呼ぶことになっていきます。

だが、現在の神社が、その昔、生活集団の共同の守護神として、個人はもちろん、公共の平和と村落の発展を祈って創祀され、それが現在なお人々の願うところである以上、氏子とは、その土地に住む、氏神さまの守護されるすべての人を指称するものと言うべきでしょう。

さて、現在私たちが存在するのは、両親があり、祖父母があり、そして代々続く先祖があるからです。現在の社会を最もよりよく築きあげるため、自ら達成し得なかったところを子孫に託し、あわせて子孫の繁栄を祈ってなくなられた祖先の努力と誠心が、今日の社会を作りあげたのです。

私たちの日本民族の祖先は、遠く神代にさかのぼります。私たちの先祖神をはじめ、代々のご先祖の残されたご事蹟を尊び、ご威徳を仰ぎ、その功績に感謝せねばなりません。これがすなわち氏神さまをおまつりする精神でもあるのです。

氏子の役目は、御祖の遺志をしっかりととらえ、将来、家をたて、人を助け、国をたてるよう、誠意努力を積み重ね、白らの違つせられないところは、次の世代へとゆずり伝えていかなければならないのです。

神社なぜ問答

(その8)



問 毎年、お彼岸にはご先祖様の供養をしないでとはと気掛かりになってゐます。主人の実家は神道なんです。その仕方が分かりません。主人の両親は故郷で健在ですが、かういふことは聞きにくいのでなたか教へて下さい。

答 ちよつと時期はづれになつてしまひましたが、三月十六日の熊日新聞に載つた46歳の主婦の方の質問をこの欄に拝借させていただし、お答へしてみませう。

まづ、神道の家庭ではご先祖さまをお祀りするのために、御霊舎(みたまや)があります。御霊舎の中にはなくなつたご先祖の霊障(れいじ・みたましろ)がお納めされてゐます。

日常の供養・お祀りとしては御霊舎を清浄にすることを心掛け、米・塩・水などをお供へします。また神も供へるなど、おほむね神棚と同様のお祀りをします。また、御霊舎の

お供へは、御飯など私達がいただく食事と同じ物をお供へするのによいでせう。よそからの頂き物などもまづ御霊舎にお供へしたいものです。

さて、ご質問のやうに、お彼岸やお盆の行事はどうすればよいでせうか。これらの行事は一般的に仏教行事と思はれがちですが、決してさうではありません。今日では仏教色が濃くなつてゐますが、祖先祭祀はむしろ仏教渡来以前からある民族的・神道の行事です。神道(といふより日本古来の祖先観)では、祖先はお彼岸やお盆などの季節の節日ごとにこの世をおとづれ、子孫の生活を見そなはし、子孫の祀りを受けられると考へます。そしてその祀りは子孫である私達自身が行ひます。お坊さんのやうな専門的宗教家にお願ひして素人には難しいお経をあげてもらふやうな必要はありません。祖先と子孫が心を一つに交流させ、祖孫一体となることに神道の祖先祭祀の意味があります。

その方法は難しいことではありません。御霊舎を掃除し、季節のもの等を丁寧に供へして、家族そろつてご先祖さまを偲び、拝礼することです。また、「五日ずし」とか「おはぎ・ぼたもち」などをお供へし、お下がりを家族でいただくのも祖孫一体の表れです。また、お墓参りも家族そろつていたしませう。なほ、亡くなられた方の年祭には、神職にお願ひして、親戚一同や所縁の方々が集まつて命日に合はせお祭りをしますが、これについては今回は省略します。

年末年始の行事案内

●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

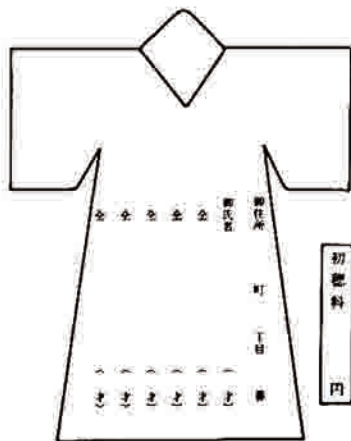
形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料(お思召し)を共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

大祓は其の秘儀深く、昔より六月、十月の祓りに尚行われた儀式で、お互いが知らず知らず犯した罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い神行事であります。其いかにれば自己反省の日で、心機を一掃し明日への力強い出発の日でもあります。即ち、一年一回の大祓に該当するもので人の心に種々諸事をもたらすのが大祓であります。

岡田宮大祓式 七月二十九日午後六時
十一月二十一日午後十二時

当日の式に一部出席できない方々の形代としてこの形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料(お思召し)を共に袋に納めて十二月三十一日(七月二十九日)までに町内の神社総代か或は宮内にお届け下さい。なお、ご不要であった方にはお返しが済むため大祓を行って下さい。

岡田宮社務所 六二二一六九九



形代(裏)

形代(表)

●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事、午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。同時に地元青年会による神酒接待もあります。

●特別祈願祭 一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祓いをします。

●どんど焼祭 一月十五日



(1月15日 どんど焼まつり)

古くなった、縄、門松等を焼納する神事。地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい、福引等の諸行事が午前中に奉納されます。

●厄除大祭 二月節分日

厄年の方は是非ご参拝下さい。

郷土地名考

⑨

鞘之神明神 幸神一丁目、旧往還にある。猿田彦命を祀る道祖神で、現在でも草履や草鞋が供えられている。幸の神の地名はこの鞘之神に因んでいる

山寺 山寺は地名のみにて寺は一つもない。中世にはこの地に寺が多かったので山寺というとか。昔、景行庵・経竹庵・開蔵庵・養釈院・桂昌院などの寺があったという。八王子宮の寺に興正寺があったともいう。経竹庵は行部田の地藏堂、開蔵庵は東横口海蔵庵という。

杵里塚趾 幸神三丁目九番にあり。長崎街道の杵里塚にて道の両脇に塚松を配っていた。次の杵里塚は前田と小嶺にあった。

編集後記

● 来年は、岡田神社の五十年に一度のご改築の年です。何卒、厚いご奉賛をお願い申し上げます。

● 好評の「神社なぜなぜ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

● 祝祭日には国旗を掲げましょう。

● 一日、十五日には神社に参りましょう。